



ニューズレター 2015 年度第 1 号

日本音楽表現学会 (J・M・E・S) 2015 年 7 月 31 日発行

日本音楽表現学会第 13 回 (美ら島) 大会特集

目 次

【巻頭言】「楽譜の正しい書き方」	後藤 丹	2
日本音楽表現学会第 13 回 (美ら島) 大会報告		3
2015 年度総会報告		3
人と音楽の輪を支援する現場体験—美ら島大会を終えて—	小西 潤子	11
会員の感想：参加者の視点から	渡辺 修身	12
発表—Befor・After	滝田 善子	12
発表を終えて	丹羽亜希子	12
実行委員の視点から	久万田 晋	12
大会スナップ集		13
【新刊紹介】『アルファベットで引く六カ国語音楽用語辞典』	松井 萌	17
新入会員紹介		18
日本音楽表現学会後援コンサート等情報		19
会員による新刊		21
研究支援情報		21
事務局からの重要なお知らせとお願い		22
各種書式		23
日本音楽表現学会第 14 回 (メム) 大会のご案内		24
2015 年度役員・委員等一覧		24
編集後記		24

日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費：5,000 円

振込先：郵便振込口座 01370=6=78225 日本音楽表現学会

楽譜の正しい書き方

後藤 丹 (作曲)

高校時代、和声や対位法を習ったとき、師匠から手書きの課題や解答例の譜面を借り出し夜中にペンで書き写したものだ。コピー機がまだ普及していない時分である。考えてみると伝記で読むバッハやヘンデルの少年期とあまり変わらないことをしていた。それから数十年。私は現在、楽譜のほとんどをコンピュータで書いている。

楽譜印刷の技術も劇的に変化した。我が国最初期の五線譜の例として明治十年代に伊澤修二が中心となって編纂した『小學唱歌集』が知られている。木版による和綴の本で、とても美しい譜面を見ることができる。江戸時代以来の浮世絵の繊細な技術が生きているのだろうか。

時代が下って、私の若い頃は原版制作で、職人さんが五線や符尾等の直線を定規とペンで引き、音部記号、符頭、休符、シャープ、フラット等は専用のスタンプで押していた。現在この技術を継承している人はほとんどいないのではないか。

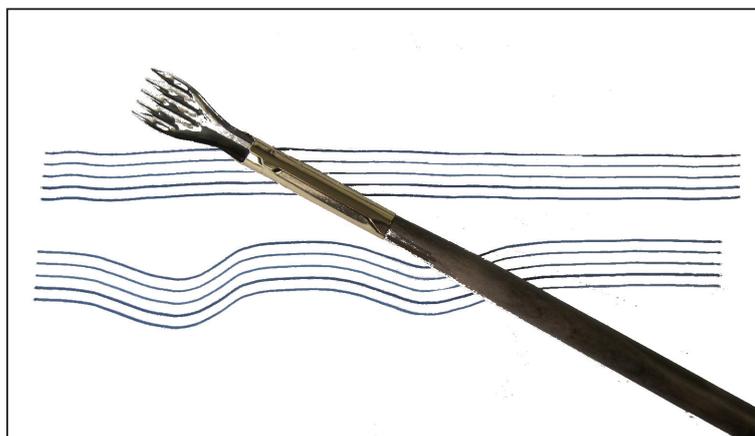
私はこの20年以上、楽譜を「フィナーレ」というソフトを用いて書いている（大部分の楽譜出版社も同じソフトのはず）。入力は電子ピアノをつなぎ鍵盤を押さえながらテン・キーで音符の長さを指定する方式である。手書きに比べての利点は数多い。速くて正確であるほか、コピーとペーストや、移調が瞬時にできる機能も便利。スコア作成では移調楽

器を実音で入力し、最後に記音に直すこともできる。簡単にパート譜が作れることも素晴らしい。また書いた音を耳で直ちに確かめられるから、誤記がほとんどなくなった。

しかし、本当に良いことづくめか？悪い点も考えてみる。まず、装置の整った環境でないと楽譜が書けないこと。ベートーヴェンのように散歩しながらのスケッチは困難。また、作曲にあたって入力しにくい書法を無意識に敬遠することにより、作風が変わったりあるいはその発展が止まったりする心配がありそうだ。これは少し怖い。

数年前ウィーンに行った際に「ラストラール」と呼ばれるペンを手に入れた。先が5つに分かれていて五線が一挙に引ける道具だ。大昔の作曲家の自筆譜などで五線が波打っているのはフリーハンドでこのペンを使ったためだろう。

そうだ。一度ラストラールを使って曲を書いてみよう。本当にバッハ、ヘンデルの時代に戻り、インクで指を汚しながら真っ白な紙から楽譜を立ち上げるのだ。コンピュータ万能の時代に少し逆らい、音を手で紙に刻む感覚をもう一度回復しよう。再生機能に頼らずに、頭の中で音たちを自由に鳴り響かせてみよう。そうすればミューズの女神がまた微笑んでくれるかもしれない。



ラストラールで引く五線

日本音楽表現学会第13回（美ら島）大会報告

2015年度総会報告

日 時：2015年6月20日（土）16:00～17:00

場 所：沖縄県立芸術大学奏楽堂ホール

出席者数：95名、委任状127通 合計222名（定足数：会員総数485名の1/3以上）

記 録：嶋田 由美

1. 開会の辞：奥忍事務局長によって総会の成立が述べられた。
2. 議長・記録選出：会員の総意によって議長に佐々木正利、書記に嶋田由美が選出された。
3. 報告

1) 2014年度事業報告

奥忍事務局長より、【資料1】に基づき報告があり、承認された。

【資料1】 2014年度事業報告 (2014年4月1日～2015年3月31日)

1. 第12回（まほろば）大会	2014年6月21日（土）～22日（日）	於：帝塚山大学
2. 2014年度理事会	第1回	2014年6月22日（日）17:00-18:00 於：帝塚山大学
	第2回	2014年12月7日（日）11:00-16:00 於：京都市北文化会館
	第3回	2015年4月12日（日）10:00-16:00 於：京都市北文化会館
	その他	電子媒体による持ち回り会議
3. 学会誌編集委員会	第1回	2014年6月21日（土）10:00-12:00 於：帝塚山大学
	第2回	2014年8月15日（金）10:00-17:00 於：神戸勤労会館
	第3回以降	電子媒体による持ち回り会議と編集作業等
4. 学会誌『音楽表現学』Vol.12発行	2014年11月30日（日）	
5. ニュースレター発行	No.1	2014年7月31日（木）
	No.2	2014年11月30日（日）
	No.3	2015年3月31日（火）
6. 会員名簿発行	2014年11月30日（日）	
7. 後援	19件	
8. 会員数	471名（3月31日現在）	

2) 第12回（まほろば）大会決算報告

小畑郁男財務局長より、【資料2】に基づき報告があり、承認された。

【資料2】 第12回（まほろば）大会決算報告（案）

【収入】	費 目	金 額	備 考	[参考] 予算
	大会参加費	1,021,000	学会員：5,000円×161名=805,000円 当日会員：3,000円×70名=210,000円 学生会員：2,000円×3名=6,000円	790,000
	広告・ブース料	245,000		200,000
	大会要項	600	300×2=600円	
	ポロシャツ買取	12,800	1,600×8=12,800円	16,000
	協賛金	200,000	帝塚山大学	200,000
	大会補助	66,179	日本音楽表現学会一般会計よりの補助	53,000
	合 計	1,545,579		1,259,000

【支出】	費 目	金 額	備 考	[参考] 予算
	基調講演謝礼	100,000	交通費・謝礼を含む	100,000
	基調講演講師必要経費	59,900	講師宿泊費 9,900 円、シンポジウムテープ起こし 50,000 円	20,000
	オープニングコンサート謝礼	30,000	天理大学雅楽部	20,000
	楽器運搬料	48,434	ラウテンクラヴィーア、クラヴィコード運搬費	100,000
	学生アルバイト謝金	158,800	800 円 × 185.5h + 交通費	200,000
	アルバイト昼食代	18,200	700 円 × 26 名 (21 日 + 22 日) = 18200	28,000
	会議費	43,180	理事会・実行委員会・参事昼食代 (1 日目のみ)、他	40,000
	大会要項作成・印刷費	643,994	作成費 250,000 円、印刷費 393,994 円	370,000
	総会資料	33,143	作成費 (事務局スタッフ作業謝金: 800 円 × 25 時間分 = 20000 円)、印刷費 13,143 円	
	チラシ、ポスター等制作・印刷費	43,250	製作費 (含・18 号棟玄関、駅前表示等各種掲示物) 20,000 円、ポスター印刷費 16,720 円、チラシ印刷費 16,720 円	150,000
	大会事業経費	56,028	事務局スタッフ宿泊費、交通費	
	ポロシャツ製作費	76,500	1,700 円 × 45 着	76,000
	同、クリーニング費	20,046	39 着分	10,000
	通信費	30,396	『大会要項』 発送費など	65,000
	交通費	55,620	実行委員会交通費、その他打ち合わせ交通費	20,000
	文具費	97,574	名札フォルダー、名札用紙、会員証用紙、トナー	20,000
	雑費	30,514	表敬訪問手土産、6 月 22 日特別警備業務料	40,000
	合 計	1,545,579		1,259,000

懇親会費

【収入】	費 目	金 額	備 考
	懇親会費	555,000	5000 円 × 111 名 = 555,000 円
	合 計	555,000	

【支出】	費 目	金 額	備 考
	懇親会費	450,000	5000 円 × 90 名 = 450,000 円
	一般会計への繰り入れ	105,000	
	合 計	555,000	

3) 2014 年度財務報告・監査報告

小畑郁男財務局長より【資料3】に基づき報告があり、また、海津幸子監事より、2014 年度会計処理が適正に行われており、会計報告に問題がないことが報告された。会計報告・監査報告ともに承認された。

【資料3】 2014 年度会計報告・監査報告 (案)

【収入】	費 目	決 算	予 算
	学会年度会費	441 ※	2,193,000
	賛助会員	5,000	5,000
	学会誌売上	90,500	50,000
	利息	829	1,000
	大会からの繰り入れ (懇親会費より)	105,000	0
	雑収入	384,331	0
	小 計	2,778,660	2,256,000
	前年度繰越	1,376,737	1,376,737
	学会基金	4,000,000	4,000,000
	合 計	8,155,397	7,632,737

【支出】	費 目	決 算	予 算
	『音楽表現学』 作成・印刷費	581,168	800,000
	ニューズレター 作成・印刷費	116,448	80,000
	名簿 作成・印刷費	49,120	30,000
	理事会 会議費	22,550	20,000
	交通費	322,870	350,000
	編集委員会 会議費	4,200	15,000
	交通費	245,511	250,000
	資料作成	0	5,000
	論文集 出版補助	0	300,000
	論文執筆のしおり 印刷費	0	60,000
	通信費	227,637	200,000
	払込手数料	5,400	10,000
	事務局費	107,979	250,000
	雑費、参事交通費等	20,275	100,000
	大会関連費	0	100,000
	第12回大会補助	66,179	0
	予備費	0	170,922
	小 計	1,769,337	2,740,922
	次年度繰越金	2,686,060	1,191,815
	学会基金	3,700,000	3,700,000
	合 計	8,155,397	7,632,737

※滞納徴収分が含まれ、前年度までの既納入分は除かれている。すなわち年度中に納入された年会費延べ人数分である。

以上の通り報告いたします。 2014年5月31日財務

小畑郁男 應和恵子
 監査の結果、以上に間違いありません。2014年6月6日 監査 谷口雄 海津幸子

4) 年会費納入状況

小畑郁男財務局長より【資料4】に基づいて報告があった。2012～2014年度未納者4名のうち1名については関係者から納入する旨の申し出があり、残りの3名の除名については審議事項となった。

【資料4】年会費納入状況 * 3年間会費滞納による除名については審議事項

会員数	未納状況	納入額 (滞納徴収分も含む)
471名 (新入会員47名)	2012年度 13名	正会員 5,000円×305名=1,525,000円 親族割引 4,000円×2名=24,000円
	2013年度 32名	
	2014年度 70名	

年会費未納者

・2012・2013・2014年度未納者氏名：佐々木恵利子、佐々木陽子、広瀬 友美、水野 麻美

他に連絡のあった6名については手続き中につき氏名を記載していない。

5) 『音楽表現論文執筆のしおり第2版』進捗状況について

奥忍事務局長より2014年度に発行できなかったが、2015年11月30日発行を目指す旨が発行予定日の修正を含めて報告された。

6) 『音楽表現学のフィールドII (仮)』進捗状況について

奥忍事務局長より【資料5】に基づいて進捗状況が報告された。

【資料5】『音楽表現学のフィールドII (仮)』進捗状況

編集委員：小野 亮祐、菅 道子、北山 敦康、小西 潤子、杉江 淑子、三島 郁、安田 香
 内容構成：第1部「音楽表現の理念と技法」
 第2部 会員からの応募論文で構成 5月31日応募〆切の時点で15本を受領
 進行状況：第1回編集委員会 6月21日17:00-18:30 於：沖縄県立芸術大学
 以降、必要に応じて委員会を開催。

7) 日本学術振興会「育志賞」推薦について
奥忍事務局長より推薦者なしと報告された。

8) 学会ロゴについて
奥忍事務局長より【資料6】に基づいて小島千か会員の作品が選出された旨の報告の後、同会員が紹介された。

【資料6】ロゴ



9) 学会の危機管理体制および不測の事態への対応について
奥忍事務局長より【資料7】に基づき報告された。

【資料7】学会の危機管理体制および不測の事態への対応

- 1) 不測の事態における対応は、大会実行委員会及び学会理事会で協議し、決定する。
- 2) 1) 項を敏速に行うため、予め双方の緊急対策対応窓口を決めておく。
(例：大会実行委員長と学会事務局長)
- 3) 「不測の事態」として、次にあげる項目を想定する。
 - ・大会開催地域周辺において、気象警報発令が予想される場合、及びそれに伴う交通障害の発生等が想定される場合。
 - ・大会開催地域周辺において震度5弱以上の地震が発生した場合、及び全国規模で影響を受けるような大震災が起きた場合。
 - ・その他、大規模な災害・事件・事故等により、大会の開催・継続が危ぶまれる状況が想定される場合。
- 4) 大会開催地域の連絡網寸断等により大会実行委員会と学会理事会との間の協議が行えない場合は、学会事務局で判断する。

10) その他
特になし



遺失物

SONY 4GB の SD カードをお預かりしています。お心当たりの方は事務局までご連絡ください。

4. 協議

1) 2015年度事業計画(案)について

奥忍事務局長より【資料8】に基づき、『音楽表現学』について号数の訂正を含めた提案があり、承認された。

【資料8】 2015年度事業計画(案) (2015年4月1日～2016年3月31日)

1. 第13回(美ら島)大会	2015年6月20日(土)～21日(日)	於：沖縄県立芸術大学
2. 2015年度理事会	第1回 2015年6月20日(土) 10:00-12:00	於：沖縄県立芸術大学
	第2回 2015年12月初旬	於：未定
	第3回 2016年3月下旬	於：未定
	その他 電子媒体による持ち回り会議	
3. 学会誌編集委員会	第1回 2015年6月20日(土) 10:00-12:00	於：沖縄県立芸術大学
	第2回 2015年8月中旬	於：未定
	第3回以降 電子媒体による持ち回り会議と編集作業等	
4. 学会誌『音楽表現学』Vol.13発行	2015年11月30日(月)	
5. 論文集編集委員会	第1回 2015年6月21日(日) 17:00-19:00	於：沖縄県立芸術大学
	第2回 2015年11月中旬	於：未定
6. 選挙管理委員会	第1回 2015年6月21日(日) 12:30-13:30	於：沖縄県立芸術大学
	第2回 2016年2月初旬	於：未定
	第3回 2016年3月下旬	於：未定
	その他 電子媒体による持ち回り会議	
7. ニュースレター発行	No.1 2015年7月31日(金)	
	No.2 2015年11月30日(月)	
	No.3 2016年3月31日(木)	
8. 『論文執筆のしおり』第2版発行	2015年11月30日(月)	
9. 後援	35件(目標値)	
10. 会員数	510名(目標値)	

2) 第13回(美ら島)大会予算(案)について

小西潤子大会事務局長より、大会予算(案)では学生会員の大会参加費が1,000円×50名と記載されているが、2,000円×25名とすることの修正を含めて【資料9】に基づき提案があり、承認された。

【資料9】 第13回(美ら島)大会予算(案) (2015年6月20-21日)

【収入】	費 目	金 額	備 考
	大会参加費	920,000	学 会 員：5,000円×150名=750,000円 当日会員：3,000円×40名 = 120,000円 学生会員：2,000円×25名 = 50,000円
	広告・ブース料	340,000	
	懇親会	400,000	5,000円×80名
	合 計	1,660,000	
【支出】	費 目	金 額	備 考
	基調講演講師謝礼	0	学会員のため
	基調講演必要経費	20,000	演奏協力者謝礼
	オープニングコンサート謝礼	20,000	クリーニング代、昼食等
	ワークショップ演奏協力者謝礼	20,000	協力者2名
	学生アルバイト謝金	150,000	@800円×250h
	アルバイト昼食代	7,350	@700円×20名×2日
	会議費	40,000	理事会・実行委員会・参事昼食代(1日目のみ)、他

大会事業経費	200,000	事務局スタッフ宿泊費、交通費、参事宿泊費、大会本部経費
ポロシャツ補充	18,000	2,000円×10着
同,クリーニング代	23,300	50着分
『大会要項』等編集・印刷費	600,000	ちらし、ポスターを含む
通信費	50,000	『大会要項』発送費等
交通費	100,000	実行委員会交通費、表敬訪問、その他打合せ交通費
文具費	1,000	
懇親会費	400,000	アトラクション経費を含む。
雑費	10,350	
合 計	1,660,000	

3) 2015年度予算(案)について

應和恵子財務局担当理事より当日配布の別刷り【資料10】に基づき提案があった。

2014年度決算で学会基金が減少したことへの質問に対する説明がなされた後に原案通り承認された。

【資料10】

2015年度予算(案)

収入	費 目	2015年度予算	2014年度		2013年度		2012年度	
			決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算
	学会年会会費 480名	2,400,000	2,193,000	2,200,000	2,174,000	2,100,000	1,907,000	1,900,000
	賛助会員	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	寄付	0	0	0	5,000	0		
	学会誌売上	50,000	90,500	50,000	50,960	60,000	44,410	60,000
	利息	1,000	829	1,000	1,204	1,000	838	1,000
	大会からの繰り入れ	0	105,000	0	0	0	9,690	200,000
	雑収入	0	384,331	0	70,922	0	0	0
	小 計	2,456,000	2,778,660	2,256,000	2,307,086	2,166,000	1,966,938	2,166,000
	前年度繰越	2,686,090	1,376,737	1,376,737	1,283,740	1,283,740	1,201,624	1,201,624
	学会基金	3,700,000	4,000,000	4,000,000	3,500,000	3,500,000	3,000,000	3,000,000
	合 計	8,842,090	8,155,397	7,632,737	7,090,826	6,949,740	6,168,562	6,367,624

支出	費 目	2015年度予算	2014年度		2013年度		2012年度	
			決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算
	『音楽表現学』 作成・印刷費	800,000	581,168	800,000	522,900	800,000	449,820	600,000
	ニューズレター 作成・印刷費	120,000	116,448	80,000	73,710	50,000	18,840	30,000
	名簿 作成・印刷費	0	49,120	30,000	0	0	24,030	20,000
	理事会 会議費	25,000	22,550	20,000	9,861	20,000	15,840	20,000
	交通費	350,000	322,870	350,000	236,560	250,000	146,248	250,000
	編集委員会 会議費	15,000	4,200	15,000	5,921	15,000	0	15,000
	交通費	300,000	245,511	250,000	262,650	250,000	205,840	200,000
	資料作成	5,000	0	5,000	7,400	0		
	論文集 出版補助	300,000	0	300,000	0	0	0	0
	論文執筆のしおり 印刷費	60,000	0	60,000	0			
	選挙管理委員会 会議費	10,000	0	0	2,650	10,000		
	交通費	40,000	0	0	30,680	30,000		
	郵送料	80,000	0	0	70,960	50,000		
	封筒作製費	6,000	0	0	5,560	0		
	通信費	300,000	227,637	200,000	120,676	170,000	116,600	170,000
	払込手数料	10,000	5,400	10,000	4,941	5,000	11,430	5,000
	事務局費	250,000	107,979	250,000	134,337	300,000	236,770	200,000
	雑費	100,000	20,275	100,000	7,300	120,000	75,934	120,000
	大会関連費	100,000	0	100,000	8,360	100,000	83,470	40,000
	大会補助	0	66,179	0	209,623	0		
	予備費	100,000	0	170,922	0	100,000		100,000
	小 計	2,971,000	1,769,337	2,740,922	1,714,089	2,270,000	1,384,822	1,770,000
	次年度繰越金	1,371,090	2,686,060	1,191,815	1,376,737	1,283,740	1,283,740	1,097,624
	学会基金	4,500,000	3,700,000	3,700,000	4,000,000	3,500,000	3,500,000	3,500,000
	合 計	8,842,090	8,155,397	7,632,737	7,090,826	6,949,740	6,168,562	6,367,624

* 2015年5月31日現在会員数483名。

4) 2015-16 年度編集委員会委員の依頼について (案)

奥忍事務局長より【資料 11】に基づき提案があり、原案通り承認された。
中村隆夫会員に編集委員長、1 期目の吉永誠吾会員に副委員長を依頼する。

【資料 11】2 期目：◎中村 隆夫、澤田まゆみ、志民 一成、曾田 裕司
1 期目：○吉永 誠吾、尾見 敦子、上山 典子、齊藤 武

5) 2015-16 年度選挙管理委員の依頼について (案)

奥忍事務局長より【資料 12】に基づき提案があり、原案通り承認された。なお委員長は 6 月 21 日の第 1 回選挙管理委員会で選出される予定である。

【資料 12】鈴木慎一郎、西野 晴香、笹野恵理子

6) 2015 年度会計監事の依頼について (案)

奥忍事務局長より【資料 13】に基づき提案があり、原案通り承認された。

【資料 13】海津幸子会員の臨時的措置としての 1 年在任延期に伴う解任につき、残任期間 1 年の監事を渡会純一会員に依頼する

7) 著作権に関するワーキンググループ・メンバーの依頼について (案)

奥忍事務局長より【資料 14】に基づき提案があり、原案通り承認された。

【資料 14】安藤 珠希、権藤 敦子、中村 滋延、福本 康之

8) 日本音楽表現学会会則改正 (案) について

奥忍事務局長より【資料 15】に基づき、昨年度より財務局長を置いたことに伴い会則中の表記に修正の必要があった旨の説明がなされ、原案通り承認された。

【資料 15】日本音楽表現学会会則改正 (案)

改正 (案)	現行
第 9 条 本会に次の役員をおく。 (省略) 2 会長、副会長、事務局長、 <u>財務局長</u> 、理事は理事会を構成する。	第 9 条 本会に次の役員をおく。 (省略) 2 会長、副会長、事務局長、理事は理事会を構成する。
第 10 条 役員の任務は次の通りとする。 (1) 会長は、本会を代表し、会務を統括する。 (2) 副会長は、会長を補佐する。 (3) 事務局長は、学会運営の実務を統括する。 (4) <u>財務局長は、学会の財務を統括する。</u> (5) 理事は、本会の管理・運営にあたる。 (6) 会計監事は、本会の <u>財務</u> を監査する。	第 10 条 役員の任務は次の通りとする。 (1) 会長は、本会を代表し、会務を統括する。 (2) 副会長は、会長を補佐する。 (3) 事務局長は、学会運営の実務を統括する。 (4) 理事は、本会の管理・運営にあたる。 (5) 会計監事は、本会の <u>会計</u> を監査する。
第 11 条 役員は、正会員の中から次の方法によって選出する。 (1) (省略) (2) 副会長、 <u>事務局長</u> 、 <u>財務局長</u> および理事は、まず候補者 8 名を正会員の選挙によって選出する。次に、当選者の互選によって、内 2 名を副会長に、1 名を事務局長、1 名を <u>財務局長</u> に選出するとともに、4 名の理事の担当を決定の上、総会において報告する。	第 11 条 役員は、正会員の中から次の方法によって選出する。 (1) (省略) (2) 副会長、事務局長および理事は、まず候補者 8 名を正会員の選挙によって選出する。次に、当選者の互選によって、内 2 名を副会長に、1 名を事務局長に選出するとともに、5 名の理事の担当を決定の上、総会において報告する。
附則 7. 2015 年 6 月 20 日改正	

9) 『音楽表現学』「投稿規定」の改正(案)について

奥忍事務局長より【資料16】に基づき、昨年度の改正に抜けていた箇所があった旨の説明がなされ、原案通り承認された。

【資料16】投稿規定改正(案)

改正(案)	現行
<p>5. 投稿要領</p> <p>(2) 原稿の形式および分量。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(省略) ・(省略) ・(省略) <p>・原著論文、評論論文、研究報告には、日本語の場合は400字程度の要旨を添付する。英語の場合は英語要旨(200語程度)と日本語要旨(400字程度)を添付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(省略) ・(省略) ・(省略) ・(省略) ・(省略) <p>(3) 原稿は、コピー9部を提出し、それとは別にメールに添付する。Microsoft Wordでの提出が望ましい。譜例・図表などについては、それらに用いたソフト名とOSを明記すること。</p>	<p>5. 投稿要領</p> <p>(2) 原稿の形式および分量。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(省略) ・(省略) ・(省略) <p>・原著論文、評論論文、研究報告には、日本語の場合は400字の要旨を添付する。英語の場合は英語要旨(200語程度)と日本語要旨(400字程度)を添付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(省略) ・(省略) ・(省略) ・(省略) ・(省略) <p>(3) 原稿は、コピー8部を提出し、それとは別にメールに添付する。Microsoft Wordでの提出が望ましい。譜例・図表などについては、それらに用いたソフト名とOSを明記すること。</p>

10) 「役員会・委員会等に出席のための交通費・宿泊費に関する内規」の改正(案)について

奥忍事務局長より【資料17】に基づき、提案がされた。宿泊費の上限や大会参加時の交通費等の支給の有無などに関する質問への回答の後、改正(案)中の往復交通費に関する文言の修正を条件に承認された。

【資料17】「役員会・委員会等に出席のための交通費・宿泊費に関する内規」投稿規定改正(案)

改正(案)	現行
<p>1) 役員会、委員会等本学会が開催する会議に出席するために必要な交通費・宿泊費は、<u>学会より支給される</u>。ただし、大会日程時に開催されるものを除く。</p> <p>2) 交通費は、勤務地と居住地の中、当該会議の会場に近接する方から会場までのもっとも経済的な経路による往復交通費(航空運賃、鉄道運賃等)とする。また、<u>往復交通費</u>については、ファーストクラスやグリーン席料金を含まず、可能な限り格安チケットを利用する。</p> <p>3) 宿泊費は、会議の開会予定時刻に前泊が必要不可欠とされる場合、あるいは会議終了予定時刻に後泊が必要不可欠とされる場合に支給される。なお、上限を1泊6,000円とする。<u>パッキング利用の場合にも上記を基準に交通費と宿泊費を合体した形で支給される</u>。</p> <p>4) 交通費・宿泊費は本人の申告制とし、手続きに従い支給される。他の組織から支給される場合、あるいは私的な事情で必要としない場合には不要の旨を申告するものとする。</p> <p>「申請書」書式：省略</p>	<p>1) 役員会、委員会等本学会が開催する会議に出席するために必要な交通費・宿泊費を<u>支給する</u>。</p> <p>2) 交通費は、勤務地と居住地の中、当該会議の会場に近接する方から会場までのもっとも経済的な経路による往復交通費(航空機、鉄道)とする。また、<u>航空機、鉄道</u>については、ファーストクラスやグリーン席料金を含まず、可能な限り格安チケットを利用する。</p> <p>3) 宿泊費は、会議の開会予定時刻に前泊が必要不可欠とされる場合、あるいは会議終了予定時刻に後泊が必要不可欠とされる場合に<u>支給する</u>。なお、上限を1泊6,000円とする。</p> <p>4) 交通費・宿泊費は本人の申告制とし、手続きに従い支給される。他の組織から支給される場合、あるいは私的な事情で必要としない場合には不要の旨を申告するものとする。</p> <p>「申請書」書式：省略</p>

11) 除名処分について

奥忍事務局長より【資料18】に基づき2012～2014年度会費未納者4名の除名処分の提案がされたが、このうち1名については総会の場で支払いの申し出があり、残り3名を除名処分対象者とする旨の修正

提案がなされ、承認された。なお会員から会費の口座引き落としの検討の提案がされたが、手続きの煩雑さによりしばらくは現行の方法を続ける旨の回答がなされた。

【資料18】 2012～2014年度年会費未納者3名（佐々木陽子、広瀬 友美、水野 麻美）

12) 第14回（MEM）大会について

奥忍事務局長より【資料19】に基づき、土門裕之会員を大会実行委員長として2016年6月4日～5日に拓殖大学北海道短期大学で開催することが提案され、承認された。また土門裕之実行委員長から挨拶がなされた。

【資料19】

会 場：拓殖大学北海道短期大学 (〒074-8585 北海道深川市MEM 4558)
会 期：2016年6月4日（土）—5日（日）
実行委員長：土門 裕之
以下、図等はNL2015-No.1 最終頁に記載。

13) その他

特になし。

なお、理事会の冒頭で今回の総会の委任状が39通で、出席予定者数と合わせても定足数162に足りないことが予想されたので、その後以下の作業を理事全員で行なった。

1. 欠席者に改めて委任状提出についてのメールを発送する。
2. 欠席者に直接電話して委任状の提出を求める。

5. 閉会の辞：安藤政輝会長より総会議事の進行に関する感謝が述べられ、閉会した。

人と音楽の輪を支援する現場体験—第13回美ら島大会を終えて—

美ら島大会実行委員会事務局長 小西 潤子

沖縄で開催するからこそ参加者が集まるのか、逆に集まらないのか…申し込み締め切り期限まで、祈るような気持ちだった。結果は、当日会員と学生会員を合わせて約190名の参加者数。参加していただいた皆様には、心から「いっぺー にふえー でーびる〔多謝〕」。そして、今回参加を見送った方々には、次の機会にぜひ沖縄に「めんそーれ〔いらっしやい〕」。

実行委員会事務局長の実感としては、第13回大会開催校として名乗り出てプロモーションビデオを作り、まほろば大会総会で披露したのがまだ昨日のことのようである。大会の2日間、着倒して塩まみれになったスタッフ・ポロシャツを事務局に送ったのが10日前。やっと、実行委員会としての役目を果たしたところである。なのに、大会そのものの記憶がすっ飛んでいるのだ。もし、「来週大会ですよ」と言われれば、すぐにまた準備を始めてしまうかも知れないほどである。本当に不思議な感覚である。

沖縄県立芸術大学音楽学部では、ちょうど私が赴任した2013年度、「沖芸音楽未来プロジェクト（通称おんぷろ）」企画を立ち上げた。学部創設25年を機に、2014年から2019年まで1年ごとにステップアップしながら多様なプロジェクト型イベントを展開し、地域に開かれ世界に発信する教育研究拠点を目指すという企画である。美ら島大会誘致もその趣旨に合致するものだったので、開催打診を受けてすぐに学部から協力の意を得られた。

おんぷろ企画は、その後美術工芸学部からも賛同を得

たので、美ら島大会は実質的に全学をあげての事業となった。学内の使えるスペースはすべて開放してもらい、学会関係教員はもちろんのこと教員有志は当日会員として参加し、事務局員からホールスタッフ、警備員さんまで事前準備から事後の紛失物探しにまでご助力いただいた。

とりわけ、学生スタッフの力は甚大であった。音楽学部1学年定員40名の小さな大学である。当然、スタッフとなる学生数には限りがある。その条件の中で、あらかじめ役割を明確に分担し、綿密な打ち合わせの下で組織づくりを行った。受付、機材、お弁当、ブースと、主要な場所にはチーフ格の学生を配備し、それぞれが責任をもつことになった。

実はこれ、マネジメントの基本なのである。あらゆる場面を想定してシミュレーションし、徹底的に疑問を潰していく。必ず、「フリー」の管理者を置き、いざという時には危機対応する。それでも、予期せぬことは必ず起きる。学生スタッフの中には、アートマネジメントを研究する者もいた。残念ながら、学生スタッフは研究発表に十分に耳を傾ける余裕がなかったかもしれないが、多少なりとも「人と音楽の輪を支援する現場体験」を積めたはずである。

おんぷろ企画事業としても、教員・学生スタッフにとっても、美ら島大会は貴重な場であった。この機会を提供していただいたことに、実行委員会事務局としてあらためて感謝する次第である。

参加者の視点から

渡辺修身（指揮）

積乱雲の合間を縫って飛行機が那覇空港へ到着。「美ら島大会」総会に何とか間に合いました。会場へ到着すると何だか不思議な空気を感じ、それが定足数に達するか否か？という、手に汗握る状況と理解するのに少々時間がかかりました。役員の皆様の迅速な対応で、定足数に達した時の会員一同の一体感は忘れられません。指揮のサロンでは、座長の中村隆夫さんの「私はアンチ齋藤メソッドです」の言葉に気を失いそうになって始まった議論も活発に行われ、来年もこのサロンは継続しても良いのではと思わせる雰囲気でした。全てを取り仕切っていただいた座長に心から感謝を申し上げます。

分科会は学会企画統一テーマの「伝統と継承」に少しでも触れたいと思い、「三味線の音色表現」を聴講させていただきました。比喜康春さんの三線と安藤政輝さんの三味線の音！！いつまでも心に沁みこませておきたいと思いました。

懇親会での琉球舞踊と三線の響きの中で、他の研究者たちとの交流も実りあるもので、今後ぜひ参加させていただきたいとの思いを強くいたしました。

発表—Before・After

滝田善子（音楽教育史・音楽教育）

「実践的ジャズ試論—武満徹『Songs』を題材として」というテーマで、金谷こうすけさんと共同研究という形で、発表いたしました。

今回の発表は、昨年のまほろば大会の帰り道、金谷さんが「来年は発表したいな」と言ったのが始まりでした。金谷さんはジャズピアニスト、作曲家、アレンジャーとして、もっぱら演奏を生業としています。そのプレイヤーの立場から発表をしたいということでありました。大好きな武満徹を取り上げて何かできないだろうか？そこから実現に向けて準備を開始し、武満徹作品のアレンジと演奏を通して、プレイヤーとしてのジャズ論を展開するという構想がまとまりました。私たちが企図した”音““そのものを中心とした発表が、学会という場で受け入れられるかどうか、冒険ではありましたが、音楽表現学会でなら受け入れられるだろうという期待もありました。

当日、私たちの発表が受け入れられるかどうか、そもそも聴きに來てもらえるだろうかという不安もあったのですが、大勢の方に聴いていただき、また感想や質問、ご意見もいただけて、本当に感謝しています。

大学の教室がライブ会場に変わった楽しさの中で、さらなる発表への意欲が掻き立てられています。

発表を終えて

丹羽亜希子（三線演奏）

日本全国から音楽演奏家や音楽研究者が沖縄県立芸術大学に集まった「美ら島大会」。私も、『沖縄民謡、琉球古典音楽における女性の進出と、それに伴う音質とキーの変化』という研究テーマのもと、研究発表をさせていただきました。

2002年にまとめた大学院修士論文『沖縄民謡における発声、発音、節まわし、およびその指導法についての研究』では、東京大学医学部耳鼻咽喉科の先生方の協力のもと、西洋の声乐発声と沖縄民謡の発声との違いをファイバースコープを使って観察実験を行いました。今回の研究はそこからの発展であり、女性の声、歌い方の変遷について音源分析を行いました。

古い音源を探ることにより、沖縄音楽を巡る環境の変化を感じると共に、口伝伝承の世界だからこそ、師匠からの指導をしっかりと身につけていくことの重要性を改めて感じました。

実行委員の視点から

久万田晋（民族音楽学・民俗芸能論）

今回は実行委員会スタッフとしての参加でした。私自身、大会開催直前に入会した新米ホヤホヤ会員なので、新鮮な気持ちで体験できました。仕事が会場・機器担当だったので、7分科会全体の映像・音響機器のメンテナンスに学生たちとドタバタ走り回っていて、じっくり研究発表を聴けなかったのは残念でした。ただ、みなさんの発表レジュメを拝見すると、分野が西洋音楽、日本音楽、大衆音楽など幅広い領域をカバーし、さらに学術的研究や実技演奏・教育に関わる実践的研究など多岐にわたっていることを実感しました。なかでも安藤会長や本学の比嘉学長と共に「三味線の音色表現」セッションに参加できたことは貴重な体験となりました。

本学の博士課程でも、3年前から芸術表現領域という実技系コースを設置したこともあり、研究と実践（演奏・創作）のバランスをどうとるかということが目下の重要課題となっています。今後この学会に大学院生たちを誘って（焚き付けて？）一緒に研究発表してみようかという誘惑に駆られているところです。

『アルファベットで引く 6か国語音楽用語辞典』

(2015年 音楽之友社刊 ISBN 978-4-276-00060-5)

松井 萌 (ピアノ)

「国語辞典には個性がある」新聞記事の一文が心に残っている。では、この辞典の個性は何だろうか。

まずソフトカバーで片手でも持ちやすく、小さな本棚にも程よい存在感で収まっている。次に頁を開いてみると、6か国語の音楽用語がアルファベットで引けるようになっていて、用例はなく長い説明はほとんどない。

実際に引いてみよう、と、とりあえず版を問わず手元にあった幾人かの作曲家の楽譜を集めてきた。楽譜には、発想標語や速度標語の数に差はあるが、全ての用語がアルファベットで書かれている。ここで用いられている楽語が何語であるかに注目してみたい。

R. Schumann (ドイツ・1810-1856) 《Humoreske op.20》

イタリア語・ドイツ語

I. Albéniz (スペイン・1860-1909) 《Suite Española》

イタリア語・スペイン語

C. Debussy (フランス・1862-1918) 《Pour le Piano》

イタリア語・フランス語

S. Prokofiev (ロシア・1891-1953) 《Piano Sonata No.7 op.83》

イタリア語・フランス語

G. Ligeti (ハンガリー・1923-2006) 《Études pour piano》

イタリア語・ドイツ語・英語・フランス語

武満徹 (日本・1930-1996) 《雨の樹 素描》

イタリア語・英語

どの作曲家の楽譜にもイタリア語の楽語が用いられているが、一曲（または一つの組曲）の中にもかわらず、イタリア語の楽語以外にもう一つ、またはそれ以上の言語の楽語が用いられている、という興味深い結果となった。

とりわけ、作曲家＝演奏家ではなくなった時代から、作曲家は音楽を楽譜によって表現する中で、これらの「楽語」つまり言葉という手段を用いて作曲家の意図を伝えようとし、楽語は音符と一体となって奏者にイメージを与える役割を果たしてきた。これらの言葉は、文章の中で使うという目的ではなく、象徴的な一言で音楽の表情を指示する役割を担っている場合が多く、故に本書には用例がないのであろう。

このように大切な役割を担う楽語が一曲の中で幾

つもの言語で書かれることは、どの言語の辞書を引くべきかの答えにたどり着くまでに時間がかかり、調べることを困難にしている場合もあるかもしれない。それに対して、本書はどの言語かわからなくてもアルファベットで引くことができ、本のサイズもさっと手に馴染む重量と大きさである。

私たちは、そこでその楽語が何語かを知り、そののちにその言葉の原義を大きな辞典で掘り下げることができし、その曲が書かれた時代においてのその言葉の意味について探求を深めることができるかもしれない。

見坊豪紀氏によると、ことばというものは変わっていくものであり、ことばはいつでも変わりつつあり、「ことばは目の前で音もなく変わる」のだそうである²⁾。

本書は、時代・国・個人の感覚の影響のもと主観的に用いられている言葉への扉をそっと開き、優しく導いてくれる入口になってくれる、そのような辞典であると感じる。楽譜から届けられたすべてのメッセージを受け取り、自身の身体を通して音にしていきたいと改めて思い、本書は楽譜を読むことや知ることへの道標のひとつとなる辞典であると感じた。

【注】

見坊豪紀 『ことばの海をゆく』 東京：朝日新聞社、1976年、pp.14-17.

【使用楽譜】

R. Schumann 《Humoreske op.20》, *Sämtliche Klavierwerke Band IV*. Schumann, Clara / Kempff, Wilhelm (eds.) Wiesbaden: Breitkopf & Härtel.

I. Albéniz 《Suite Española》, 『アルベニス スペイン組曲』 東京：音楽之友社.

C. Debussy 《Pour le Piano》, 『ドビュッシーピアノ曲集 IV』 安川加寿子校註 東京：音楽之友社.

S. Prokofiev 《Piano Sonata No.7 op.83》, *Sonatas for piano volume two sonatas 6-9. Authentic edition.* Boosey & Hawkes Music Publishers Ltd.

G. Ligeti 《Études pour piano》, *Études pour piano -premier livre-. Final edition.* Mainz: Schott Musik International GmbH & Co. KG., *Études pour piano -deuxième livre-. Mainz: Schott Musik International GmbH & Co. KG.*

武満徹《雨の樹 素描》, 『雨の樹 素描』 第3版 東京：日本ショット株式会社.

新入会員紹介

個人情報に付き伏せています。

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

山田 まゆみさん 第3回 サマーコンサート

日 時：2015年7月26日(日) 14時開演予定

会 場：ノワ・アコルデ音楽アートサロン

主要内容：ピアノ独奏、声楽独唱、ピアノとチェロの演奏、ピアノ連弾演奏など。

趣 旨：ピアノ自作曲の発表。チェロとピアノによる協奏曲など、なかなか一般の方には聴く機会のない音楽や、親しみやすいクラシック、ジャズなどの幅広いジャンルのピアノ演奏で、観客に音楽の楽しさや理解を深めてもらう。

連絡先：山田まゆみ 自宅：06-6853-9690 携帯：090-5660-4439

亀井貴幸さん 3つの楽器が織りなす詩歌唄〜ルネサンスから印象派 贅沢な『うた紀行』のタペ〜

日 時：2015年7月29日 19時開演

会 場：ムラマツ リサイタルホール

料 金：前売 3200円、当日 3500円

主 催：ムジカ ベリッシマ

演奏者 =： 粥川彩子 (ヴァイオリン)、亀井貴幸 (ギター)、今井正 (ピアノ)

曲目など：ジョン・ダウランド「ニコルス夫人のアルマンド/ラクリメ パヴァン 7つの涙より昔の涙/言ってみて、恋の神よ」、パガニーニ「デュオ コンチェルタータ」、ブラームス「ヴァイオリンとピアノのためのソナタ第1番 ト長調『雨の歌』」、ファリャ「7つのスペイン民謡組曲」、アルベニス(ゴドフスキー編)「タンゴ」ラヴェル「組曲『鏡』より 道化師の朝の歌」シマノフスキー「夜想曲とタランテラ」

趣 旨：本学会会員を含む室内楽による、「うた」に焦点を絞った演奏会。

島野聖章さん ピアノの詩人・魔術師〜ショパン&リスト・プログラム〜

日 時：2015年8月2日(日) 14時開演 (13時開場)

会 場：music cafe Angés (0744-35-4018)

料 金：1000円 (+ 1drink order)

主催後援：Angés

演奏者名：島野聖章

曲目など：ショパン：ノクターン作品9-2、幻想即興曲、舟歌、リスト：愛の夢、超絶技巧練習曲第10番 他

趣 旨：同時代を生きた2人のピアノ作曲家の作品を聴き比べる。

連絡先：shimanomasaaki219@live.jp

安藤政輝さん 安藤政輝リサイタル 宮城道雄全作品連続演奏会 16

日 時：2015年9月2日(水) 開演：19:00 / 開場：18:30

会 場：紀尾井小ホール

チケット：前売：4,500円 / 当日売：5,000円

内 容：宮城道雄の全作品を、社会背景を考察しながら時代を追って演奏していくシリーズの16回目。昭和13年～14年を中心に。

主な曲目：《大和の春》《輝く大地》《うぐいす》

出演者：安藤政輝 / 安藤珠希 / 石井まなみ / 柴田旺山 (尺八) / 野川美穂子 (解説)、他

主 催：安藤政輝

連絡先：156 - 0054 東京都世田谷区桜丘1 - 3 - 17
Tel.:03-3425-3939/Fax.:03-3425-0580
E-mail: ando.masateru@gmail.com, <http://www.h2.dion.ne.jp/~masando/>
後援 (公財) 日本伝統文化振興財団/日本音楽表現学会

牛渡克之さん 東北プラスキャンプ
期 日：2015年9月26日(土)～27日(日)
会 場：岩手県青少年会館
趣 旨：主に東北の若い世代に演奏に関するアイデアを提供する
連絡先：090-4436-4937 (ウシワタ)

深井尚子さん デビュー30周年記念 深井尚子ピアノリサイタル
日 時：2015年10月14日(水)
会 場：文京シビックホール 小ホール
料 金：全自由席 3000円
主催後援：主催：ブルンネン・ミュージック 後援：全日本ピアノ指導者協会
演奏者名：深井尚子 小原圭
曲目など：オールバートーヴェンプログラム ピアノソナタ作品53、作品57
チェロソナタ作品5-2 作品63
趣 旨：1985年ウィーンにおいてのデビューリサイタルから30年が経ち、あらためて傑作の森時代のベートーヴェンの熱い思いのみなぎった作品を集め、演奏する。

牛渡克之さん 牛渡克之ユーフォニアムリサイタル VOL.11
日 時：2015年10月19日(月) 19:00
会 場：東京オペラシティ・リサイタルホール
演奏者名：牛渡克之・新居由佳梨(ピアノ)
入 場 料：前売：一般3000円 学生2500円(当日各500円増)
曲 目：UFO協奏曲他

牛渡克之さん 牛渡克之 ユーフォニアムミニリサイタル 東北ツアー ～うししとその弟子～
期日と会場：2015年11月4日(水) 19時開演予定 八戸市公民館
2015年11月8日(日) 14時開演予定 弘前市岩木文化センター あそべる
2015年11月11日(水) 19時開演予定 盛岡市民文化ホール マリオス小ホール
入 場 料：1000円(一般、学生の区別無なし)を予定
主 催：牛渡克之
趣 旨：演奏研究の成果を学生とともに発表する
主な内容：「UFO協奏曲」(J. デ・メイ)、「ハーレクイン」(P. スパーク) ほか
連絡先：090-4436-4937 (ウシワタ)

山崎英明さん 三河高音の会 -Mikawa High Tone Party- コンサート Vol.1
日 時：2015年11月14日(土)
会 場：岡崎市シビックセンター コンサートホール「コロネット」
料 金：1500円
主催後援：三河高音の会
演奏者名：山崎英明、大久保亮、蔦谷明夫(以上、声楽)、金澤みなつ(ピアノ)
曲目など：オー・ソレ・ミオ、フニクリ・フニクラ、カタリ・カタリ、《魔笛》より“なんと美しい絵姿”、《リゴレット》より“女心の歌”、《ラ・ボエーム》より“冷たき手を”等
趣 旨：オペラやリサイタル、各種コンサートで活躍する三河地方にゆかりのある3人の若手テノールの競演

渚 智佳さん 渚 智佳 ピアノ・リサイタル
日 時：2015年12月17日
会 場：ルーテル市ヶ谷ホール 所 属：ヤマハ音楽振興会
趣 旨：ショパンとシューマンにおけるロマン性、ピアノリズムの違いを聴き比べる
主要内容：ピアノ・ソロ演奏（お話を含む）、ショパン：エチュード作品25より、スケルツォ第4番、シューマン：謝肉祭・・・ほか（曲目は予定）
連絡先：03-3557-5820（渚）

上原由記音さん エンリケ・グラナドス没後100年記念
上原由記音ピアノリサイタル ゴイエスカス《恋するマホたち》全曲演奏
日 時：2016年5月30日 19時
会 場：東京文化会館小ホール
料 金：3,000円
主催後援：主催：コンセール・プルミエ
曲 目：エンリケ・グラナドス：組曲「ゴイエスカス（恋するマホたち）」全曲、
ゴイエスカ（ゴヤ風の情景）「わら人形」
趣 旨：E・グラナドスの没後100年の記念年に際し、彼の最高傑作、組曲「ゴイエスカス」の演奏を行う。2015年～2016年の4回の「上原由記音スペイン音楽講座エンリケ・グラナドス」及び、『月刊ショパン』での1年間の連載「グラナドスの魅力」の集大成となる。

会員による新刊

後藤 丹さん わらべ歌によるパラフレーズ《遊びをせむとや生まれけむ》
発行年月：2015年3月
出版社：全音楽譜出版社
定価：本体500円＋税
備考：全音ピアノピース No.549 ISBN978-4-11-911549-7

後藤 丹さん 日本民謡によるパラフレーズ《北前船西廻り航路》
発行年月：2015年4月
出版社：全音楽譜出版社
定価：本体500円＋税
備考：全音ピアノピース No.550 ISBN978-4-11-911550-3

研究支援情報

ヤマハ音楽支援制度 研究活動支援 2016年度対象者募集のお知らせ

支援対象：2016年4月～2017年3月の間に行われる音楽をテーマとした研究活動

- ・音楽を科学的あるいは社会学的視点から考察した研究活動
- ・个性的かつ創造性に富んだ研究活動
- ・音楽文化の向上に有益な、又は新しいテーマを持った研究活動

支援額：1件につき100万円まで（返済不要）

募集期間：2015年9月1日（火）～9月25日（金）webエントリー期限

面接選考：2015年11月9日（月）〈書類選考通過者のみ〉

応募方法：2015年9月1日（火）よりWebにて応募受付開始

詳細：ヤマハ音楽振興会 Web サイト <http://www.yamaha-mf.or.jp/shien/>

事務局からの重要なお知らせとお願い

1. 年会費の納入について

- ・年会費未納の方には今回ニューズレターとともに、「郵便振込票」を同封しています。過年度分が未納の方の振替票には、未納年度に印を入れてあります。行き違いご送金済みの場合はご容赦ください。
- ・学会は皆様方の年会費で運営されています。機関誌の発行、大会の開催など、さまざまな活動に支障をきたすことのないよう、速やかな納入をお願いいたします。
- ・納入は必ず郵便振替でお願いします。なお、学会では原則として領収書発行はいたしませんので、無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」(ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」)に、納入年度をメモの上、保存されることをお勧めいたします。

2. 住所・所属・電話番号・メールアドレスの変更は、速やかにお届けください。

- ・学会からの送付物はお届けいただいた連絡先に送っていますが、転居先不明等で返却される封筒が少なからず存在します。そのたびに所属先や、時には入会時の「推薦者」に問い合わせ再送しています。このような手間と経費を削減するために、みなさまのご協力を切にお願い申し上げます。
- ・連絡先変更は、下記アドレスから「会員情報フォーム」に変更事項を入力いただくか、事務局までメールで直接お知らせください。
- ・会員情報フォーム：
<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>、
- ・事務局メールアドレス
music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

3. ニューズレターへの投稿

ニューズレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

- ・研究ノート、随想など：図表等を含めて刷り上がり1頁以内。
- ・コンサート情報：学会後援のものを掲載します。
- ・新刊案内・CD/DVD リリース：会員による刊行物の紹介。購入方法なども含めてお知らせください。
- ・その他：所属されている他学会の情報などもお寄せください。
- ・投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

4. 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

メール等で事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

会員価格：Vol.2～Vol.3は1部1500円+送料

Vol.4～Vol.10は1部3000円+送料

一般価格：Vol.2～Vol.3は1部3000円+送料

Vol.4～Vol.11は1部3500円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。なお、Vol.1は残部がありません。

5. 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・機関誌『音楽表現学』への投稿：
『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。なお、投稿〆切は、例年5月31日です。
- ・大会での発表：
本学会ならではの生の音楽表現を含めた研究発表の機会をご利用ください。
- ・コンサートの後援・協賛：本学会ホームページのリンクから〔コンサート等公演/協賛申請フォーム〕にて申請してください。

【各種書式】

1. 「入会申込書」

入 会 申 込 書	
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。	
年 月 日	
1) 氏 名 (ふりがな) :	_____
2) 専門分野 :	_____
3) 所 属 : (あれば)	_____
4) 自宅住所 :	〒 _____
5) 連絡先 : (上記と異なる場合) 〒	_____
6) 連絡先 Tel. :	_____
7) 連絡先 Fax. :	_____
8) e-mail :	_____
9) 推薦者名 (学会員・1名)	_____
10) 日本音楽表現学会に期待されること、ご要望等を150字程度でお書きください。 (入会承認後ニューズレターの新入会員紹介の記事にさせていただきます。)	

[備考]

- ・「入会申込書」を送付いただきましたら、事務局から年会費納入のための郵便振替票を送ります。年会費ご入金の確認をもって手続きを進め、入会承認後、「入会承認のお知らせ」文書をお手元にお届けします。
- ・入会申込書はHPからもダウンロードできます。
- ・学会からの連絡（印刷物お届けなど）は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。
- ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

2. 「後援願」〔コンサート等後援・協賛申請フォーム〕にて申請ください。

「後援願」は、本学会ホームページのリンクから〔コンサート等後援・協賛申請フォーム〕に必要事項を記入して申請していただきますよう、ご協力よろしく願いいたします。フォームの操作がむずかしいときには、同じ項目をメール本文にコピーしてお送りください。

3. その他 他の書式が必要なときには、事務局へお申し出下さい。

日本音楽表現学会第14回（メム）大会のご案内

会 場：拓殖大学北海道短期大学
 (〒074-8585 北海道深川市メム 4558)

会 期：2016年6月4日(土)、5日(日)

実行委員長：土門 裕之

宿泊ホテル：深川には適当な宿泊施設がありません。

旭川に宿泊されることをお勧めします。

(旭川駅→深川駅 JR特急 18分/バス 50分)



拓殖大学北海道短期大学へのアクセス

A 「新千歳空港」利用

新千歳空港→札幌駅→深川駅

JR 36分

JR特急 61分
またはバス 100分

B 「旭川空港」利用

旭川空港→旭川駅→深川駅

バス 35分

JR特急 18分
またはバス 50分

「深川駅」から「拓殖大学北海道短期大学」
 大学バス特別運行
 空知中央バス約10分/タクシー5分

【参考】旭川—深川間のJR運行と料金事情

- ・特急は30分間隔ですが、普通列車は極端に少ない。
- ・特急利用には、往復のS切符、4枚綴りのS切符フォーがお得です。
 (S切符フォー(1枚あたり)720円 v.s 特急片道通常 1,260円)



2015年度役員・委員等一覧

<p>会 長：安藤 政輝 副 会 長：後藤 丹 小西 潤子 事務局 長：奥 忍 財務局 長：小畑 郁男 理 事：豊田 典子 (事務局担当) 應和 恵子 (財務局担当) 藤原 嘉文 (総務担当) 木下 千代 (総務担当)</p> <p>編集委員会： 委員長 中村 隆夫 副委員長 吉永 誠吾 委員 尾見 敦子 上山 典子 齊藤 武 澤田まゆみ 志民 一成 曾田 裕司</p>	<p>『フィールド』編集委員会： 委員長 小野 亮祐 副委員長 安田 香 同 菅 道子 委員 北山 敦康 小西 潤子 杉江 淑子 三島 郁</p> <p>著作権ワーキング： 代表 権藤 敦子 委員 安藤 珠希 中村 滋延 福永 康之 (近藤 晶子)</p>	<p>選挙管理委員会： 委員長 鈴木慎一郎 委員 笹野恵理子 西野 晴香</p> <p>監事： 谷口 雄資 渡会 純一</p> <p>会長諮問会議： 草下 實 佐々木正利 杉江 淑子 安田 香</p> <p>参事：(事務局) 似内裕美子 松井 萌 近藤 晶子</p>
--	--	---

編 集 後 記

夏真っ盛り、みなさまお元気でお過ごしでしょうか？沖縄で開催された「美ら島大会」から1ヶ月余り。たくさんの方々に御参加戴き、大盛会でした。空港に着くや否や出迎えてくれた南国の香りと強烈な日差し、夕刻の突然のスコール、そして何よりもオープニング・基調講演での素晴らしい琉球古典音楽の演奏にうっとりしたことなど、つい先日のように思い出されます。系数実行委員

長をはじめ大会実行委員会のスタッフの皆さん、大変お世話になりました。今回の誌面は「美ら島大会」特集。写真グラビアのページをはじめ関連記事が満載です。
 さあ、来年度の大会開催地は一転して北海道の深川市。清々しい6月の北海道での「メム大会」、今から楽しみです。

(藤原 嘉文)